

めぶきニューヨークレポート

MEBUKI NEW YORK REPORT

2022年5月号

- ◇ 【調査レポート】米FRBの今後の金融政策・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 1
- ◇ 【NYライフ】ワシントンDCの桜・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 3
- ◇ 【ニュース一覧】・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 4

常陽銀行ニューヨーク駐在員事務所
712 Fifth Avenue 8th FL
TEL : +1-347-686-8420
E-mail : newyork@joyobank.co.jp

本レポートの内容につきましては、当行の信頼し得る先からの情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、信頼性を保証するものではありません。具体的に法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談くださいますようお願い致します。

発行元：常陽銀行市場国際部



調査レポート

一 米 FRB の今後の金融政策 一

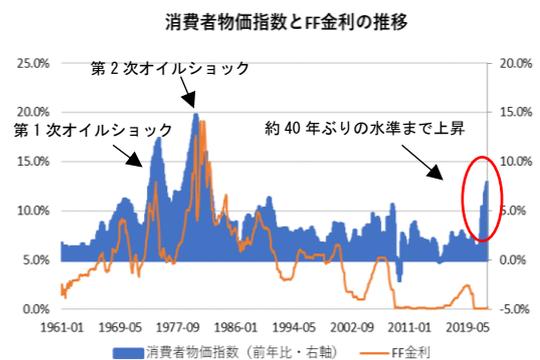
米国の中央銀行である FRB（連邦準備理事会）は、足元の物価上昇に対応すべく 2022 年 3 月に約 3 年ぶりとなる政策金利引き上げ（以下、利上げ）を発表しました。今回は、今後更なる利上げが見込まれる米国の金融政策について、レポートします。

1. 利上げの背景

FRB が利上げに動いた理由は、足元の国内の物価上昇を受けたことによるものです。

(1) 40 年ぶりの物価上昇

今年 4 月 12 日に発表された 2022 年 3 月の消費者物価指数（モノやサービスの価格動向を示す）は、前年同月比で+8.5%となりました。これは 1970 年代後半のイラン革命をきっかけに起きたオイルショックの時に並ぶ、約 40 年ぶりの水準です。



(2) 物価上昇の要因

物価上昇の要因は主に以下 3 点と考えられています。

① コロナ禍での供給制約

コロナ禍での労働人員の不足による物流の停滞や工場の稼働率低下など、製造業を中心に生産活動に大きな影響が出ました。特に「産業のコメ」と呼ばれる半導体の不足は、様々な工業製品の製造に大きな影響を及ぼしました。

② ロシア・ウクライナ問題によるエネルギー価格の上昇

ロシアによるウクライナへの侵攻により、日米欧等先進諸国はエネルギー大国ロシア産資源の輸入を停止したため、ロシア産以外の資源に需要が集中し、資源価格が上昇しました。

③ 米国の好景気

米国の景気は、コロナ禍で一時的には急減速したものの、足元回復基調にあります。経済活動の拡大に伴い労働市場では需要が高まり、労働者の賃金の上昇が続いています。

2. FRB の方針

(1) 今後の方針

3 月の FOMC（金融政策決定会合）において、FRB は足元の米経済の良好さを示す一方、物価の高止まりを認め、ロシア・ウクライナ情勢次第では更なる物価上昇のリスクにさらされる可能性があるとの

〈今後の利上げ回数見直し〉		〈今後の経済見通し（単位：％、カッコ内は前回12月発表値）〉					
	2021年	2022年	2023年	2024年	長期		
3月会合	12月会合	実質GDP	2.8	2.2	2.0	1.8	
2022年	7	3	成長率	(4.0)	(2.2)	(2.0)	(1.8)
2023年	3.5	3	失業率	3.5	3.5	3.6	4.0
2024年	0	2	物価上昇率	4.3	2.7	2.3	2.0
合計	10.5	8		(2.6)	(2.3)	(2.1)	(2.0)

(出所) FRB

見方を示しました。同時に今後の利上げ見通しを前回（2021年12月会合）から上方修正（8回→10.5回）しました。

(2) 直近のFRB高官の発言

パウエルFRB議長は4月21日のIMF会合で、次回の会合で0.5%の利上げが選択肢となると発言し、強いトーンで物価上昇に対処する方針を強調しました。また、ブレイナードFRB理事は4月5日の講演において、物価上昇圧力を低下させる取り組みを最優先として、利上げを進める方針を示しました。比較的ハト派スタンス（金融緩和派）として知られる両氏が利上げに対して前向きな発言をしたことは、市場で話題となり金利が大きく上昇する要因となりました。

〈投票権を有するFRB理事のスタンス図〉



3. 市場の見方

前述の通り、直近の消費者物価指数は依然高い水準が維持されたことで、市場では予想利上げ回数が引き上げられています。

FRBは2022年3月の会合で2023年のFF金利(政策金利。4/25日現在は0.25%~0.5%)の予想値を2.8%としましたが、市場では3%以上の水準を予想する声が増えています。利上げは景気を冷ます要因となる一方で、米国では以下の理由から「ひどい景気減速には至らない」との楽観的な見方が多い印象です。

① 堅調な雇用環境

足元の雇用環境は良好であること。(失業率は2022年3月には3.6%に低下しています。尚、コロナ禍に見舞われた2020年には一時14.8%に上昇しています。)

② 良好な個人消費

コロナ感染拡大が落ち着きつつある中、夏場に向けてサービス業を中心に個人消費の盛り上がり期待されていること。(街中の人通りは既にコロナ前に戻ったとの声もあります。)

③ 低い家計債務負担率

家計での債務負担について、住宅ローン等の元利返済比率は8%（リーマンショック時は約10%）と高まっておらず、支払い困難な世帯は少ないと考えられること。ただし、ロシア・ウクライナ問題は大きなリスク要因と見られており、同問題の動向次第では見通しが大きく変更される可能性があります。

4. おわりに

物価上昇は国民の不満の原因となりやすく、今年11月に中間選挙を控えるバイデン政権によるFRBへの政治的な圧力を指摘する声もあり、政治的にも注目されるテーマとなっています。本テーマを含め現地に関するご質問等ございましたら、どうぞお気軽にお問い合わせ下さい。

(お問い合わせ先: newyork@joyobank.co.jp)

【ニューヨーク駐在員事務所 吉田 圭佑】

ーワシントン DC の桜ー

ニューヨークでは、寒い冬も終わり、少しずつ春らしい日も増えてきました。一足早く春を楽しもうと、ワシントン DC の桜を見に行ってきました。日本から寄贈されワシントン DC のポトマック公園に植えられた桜は、今ではアメリカで最も有名な桜の名所となり、国内だけでなく世界中から観光客が訪れます。ニューヨークからは車、又は電車で3時間半程です。



最近では冬の終わりから春にかけての気温が以前より高くなる傾向があり、この数年は平均より早い時期に満開を迎えているそうです。今年も3月中旬に暖かい日が続いたため、3月21日に開花のピークが発表されました。訪れたのはその数日後の週末でしたが、素晴らしい満開の桜を見ることができました。

ワシントン DC では毎年、1912年に日本から桜が贈られたことを記念して「全米桜祭り」が行われています。満開直後の週末、かつ全米桜祭り真最中ということもあり、どこも多くの人で賑わっていました。4週間に渡って行われる桜祭りの間、約150万人の人が訪れると言われています。



会場に到着して驚いたのが、人の多さ、桜の木の多さ、そして寒さです。数日前までとは打って変わり、体感が0℃近い寒さと強風の中、一年に数日しかないピークを震えながら楽しみました。特に有名なスポットである Tidal Basin という池は、周囲をぐるりと桜の木が囲んでおり、トーマスジェファソン記念堂やワシントン記念塔など、ワシントン DC の象徴とも言える建造物を桜越しに望むことができます。公園内や周辺には他にも、リンカーン記念堂、国会議事堂、スミソニアン博物館など、見どころが数多くあります。現在公園内には、ソメイヨシノをはじめ10種類ほどの桜の木が、約3800本植えられているそうです。

久しぶりに見る満開の桜はとても美しく、日本でのお花見を思い出して懐かしく感じました。何度でも見たいくなる景色ですが、もう少し暖かく、天気の良い日だともっと楽しめると思います。



【ニューヨーク駐在員事務所 菱沼 いずみ】

ニュース一覧

(2022年3月下旬から2022年4月下旬のニュースを抜粋)

●政治

- ・バイデン大統領、支持率 40%と最低更新 ロイター/イプソス調査 (3/23)
- ・ホワイトハウス、ロシアの核兵器使用に備え緊急時対応策を策定へ(3/24)
- ・日米、牛肉セーフガード見直しで合意 TPP 枠内なら発動せず(3/24)
- ・米 21 州、公共交通機関のマスク着用義務付け停止を裁判所に申し立て(3/29)
- ・バイデン大統領、今後 6 ヶ月間の石油備蓄1日 100 万バレルの追加放出を発表(4/1)
- ・米政権、対ロシア追加制裁、最大手銀行やプーチン氏娘ら対象 新規投資も禁止(4/6)
- ・米上院、ジャクソン氏の最高裁判事就任を承認 黒人女性初(4/7)
- ・ニューヨーク州副知事が辞任、収賄罪などで起訴(4/12)
- ・バイデン大統領、ロシアのウクライナ侵攻は「ジェノサイド」と初見解(4/12)
- ・米政権、8 億円規模の対ウクライナ追加軍事支援を発表(4/13)
- ・米政権、公共交通機関でのマスク着用義務付けを撤廃、地裁が違法判断(4/18)

●金融政策

- ・パウエル FRB 議長、通常より大幅利上げも インフレ抑制へ「迅速に」対応(3/21)
- ・クリーブランド連銀マスター総裁、年内に複数回の 50BP 利上げ見込む(3/22)
- ・サンフランシスコ連銀のデイリー総裁、次回 FOMC で 50BP の利上げに前向き(3/23)
- ・ニューヨーク連銀ウィリアムズ総裁、「適切なら」50BP 利上げ支持(3/25)
- ・フィラデルフィア連銀ハーカー総裁、年内あと 6 回の利上げ、50BP も排除せず(3/29)
- ・シカゴ連銀エバンズ総裁、FRB インフレ抑制に今年 7 回の 25BP の利上げ必要(4/1)
- ・ブレイナード FRB 理事、FRB 資産縮小、5 月にもかなり速いペースで(4/5)
- ・シカゴ連銀エバンズ総裁、50BP 利上げ「検討に値する」、急速な動きは禁物(4/11)
- ・ブレイナード FRB 理事、6 月にバランスシート縮小に着手する可能性(4/12)
- ・フィラデルフィア連銀ハーカー総裁、米インフレ対応、過度な利上げ望まない(4/14)
- ・セントルイス連銀ブラード総裁、FRB、年内に 3.5%まで利上げへ(4/18)

●経済指標

- ・中古住宅販売戸数:2 月は 602 万件と前月から減少(予想は 610 万件)(3/18)
- ・新築住宅販売戸数:2 月は 77.2 万件で前月より減少(予想は 81.0 万件)(3/23)
- ・消費者景気信頼感指数:3 月は 107.2 と前月の 105.7 から上昇(予想は 107.5)(3/29)
- ・国内総生産(GDP):10-12 月確定値は前期比年率+6.9%(3/30)
- ・ISM 製造業総合景況指数:3 月は 57.1 と前月の 58.6 から低下(予想は 58.0)(4/1)
- ・非農業部門雇用者数:3 月は前月比+43.1 万人と堅調な伸び(予想は+49.0 万人)(4/1)
- ・失業率:3 月は 3.6%と前月の 3.8%から約 2 年ぶりの水準に改善(予想 3.7%)(4/1)
- ・CPI:3 月は前年同月比+8.5%と加速(4/12)
- ・小売売上高:3 月は前月比+0.5%で伸びは鈍化(予想は+0.6%)(4/14)
- ・住宅着工件数:3 月は前月比+19.4%の 173.9 万戸(予想は 161.3 万戸)(4/16)

(出所:各種新聞等)